



# 駒林小 学校便り

平成29年度

7月号

7月3日発行

## 地域とともに歩む学校

副校長 重泉 正昭



「今日は学級懇談会か。やだなー。」まだ、教師になりたての頃、懇談会が近づくとそんなことを思っていました。その頃は、毎回7～8割ほどの保護者の方が集まっていました。けれども、大学を出たての自分にとって、全員が「敵」に感じていました。きっと、「どんな先生なんだろう。」という思いが厳しい視線に感じたのでしょう。また、好意のある方は特に何も言わず、意見を言う方は疑問を持っている方に限られるので、全員が自分に不信感を持っていると感じていたのだと思います。地域に対しても同僚から「職員よりも地域を大事にしている。」などの苦言が聞かれました。しかし、自分が児童指導を担当し、地域に出ることが多くなると、地域のみなさんが「わがまちの学校」という思いを持っていて、「できることは何でもするよ。」「何かあったら言ってきてくれ。」といった声を数多く聞きました。本当に学校のことを思ってくださっていることが伝わりました。

また、同じ学校に何年もいると、年々苦情が少なくなりました。しかし、それは自分の成果ではなく、「もう少し長い目で見てあげて。」「先生はきっとこういう考えなのよ。」「最後になればわかるわ。」と以前担任をしたクラスの保護者の方々が、今の保護者の方へフォローしてくれていたのです。自分も保護者に育てられていると感じた瞬間でした。「子どもが変われば、親も変わる。」をモットーに指導していた私が、「保護者と連携（同じ方向を向けば）すれば、子どもはすぐに変わる。」に変わった瞬間でした。

今年度から本校には、地域コーディネーターが発足しました。地域コーディネーターとは、学校の様々な教育活動を側面からサポートするために、保護者や地域からボランティアを募り、その活動をコーディネートする役です。本校では、元PTA会長の多久島さんが研修を重ね、その役を担っていただけることになりました。現在、今まであった飼育ボランティアや図書ボランティア、ミシンボランティアに加え、花ボランティアも立ち上げてくださいました。今まで雑草だらけだった花壇が、着々ときれいになっています。また、今まであったボランティアも、保護者の方々が中心に動いてくれています。このように、学習面だけでなく、環境面でも学校をサポートしていただいています。今後も学校のニーズとボランティアとして活動できることをすり合わせながら、よい教育環境を築いていきたいと思っています。

また、地域も大変協力的で「地域で子どもを育てる」といった意識が高く、地域力を改めて感じます。以前にも書きましたが、地域による見守り活動は児童の安全・安心に欠かせません。先日の大雨の時にも立ち見守りをさせていただき、強風で傘が折れて泣いている子を、学校まで送り届けてくださいました。学校の目の届かないところをカバーしてくださっています。

今後も、保護者・地域に支えられながら、より良い教育活動を推進していきたいと思っています。最後になりますが、現在クラブ活動において将棋を教えてください方を探しています。もし、教えていただける方がいましたら、学校までご一報ください。

